市長コラム Mayor's Column

地域経済の担い手たちのために

津市長　前葉　泰幸

あのつ台に津市ビジネスサポートセンターを開設して２年近くが経過しました。12名の職員が専門家の相談員５名とともに、企業誘致と中小企業への経営支援および創業支援のワンストップ窓口の業務に従事しています。

設立当初、「ビジネスサポート」と銘打った津市の事業が役に立つ場面はさほど多くないのでは、という疑問の声も聞かれました。確かに、自らリスクを取って一つ一つ経営判断をしていく経済の担い手たちに対し、行政のサービス窓口が提供する支援の中身は限られています。自由な経済行為に行政が関与することは必要最小限にするべきだからです。

いったいどのような支援が必要とされているのか、職員たちは手探りで業務に取り組んできました。初年度の経営支援の相談件数は開設前の12％増、関与した創業件数は年間28件と開設前の約５倍、これまでに誘致した企業は15社になるなど、確実に成果が現れてきています。

まず、創業支援においては、相談者に「寄り添う」姿勢を徹底しました。

これまでも、平成24年度から始めた「ソケッ津」において、市内の公的機関と連携して「つ創業塾」を開催し、マーケティングや資金調達などの講義やビジネスプランの作成など、創業の準備段階から開業後まで継続した支援を行ってきました。しかし、実際に相談窓口を訪れるのは、そこにたどり着く前の方が大半でした。創業を考えているものの、どこに相談したら良いのか、何から始めれば良いのか分からない中、津市の無料相談窓口を見つけて連絡してこられるのです。そこで、まずは、相談者のお話を窓口で一元的に受け止めることにしました。その上で、職員や専門家がナビゲーター役となり、創業に向けて一つ一つのステップをサポートしながら進んでいきます。

相談者の中には、一人で事業を立ち上げようと考えている方も多いことから、創業を考えている方から開業後間もない方までを対象に、学びと交流の場として「ビジネスカフェ」を企画し、初年度は４回開催しました。少人数の和やかな雰囲気での情報交換により起業へのプレッシャーが和らいだという嬉しい感想も届くようになり、本年度は開催を６回に増やしたところです。

また、行政が中立的な立場で間に入って「つなぐ」ことで事業者の抱える根深い悩みに展望が開ける事例も生まれました。

事業者にとって事業の承継はとてもデリケートな問題です。事業を引き継ぐ相手がいても、経営方針や事業展開の考え方の相違から話し合いが行き詰まり、第三者を頼ることになるケースも多くあります。この２年の間に相談を受けた事業承継問題は９件。後継者は親子、親族など、血縁関係にある場合がほとんどで、親子の間柄でも会社のことで踏み込んだ話をするのは難しいことが察せられます。行政には、承継する側とされる側、双方の主張を整理して、一時的に通じなくなっているお互いの気持ちを伝える仲介者としての役割が求められました。ビジネスサポートセンターのスタッフを通じて両者のコミュニケーションが復活すると事態は少しずつ動き出し、店舗改装などの新規投資や、商品の改変、資金計画の立案など事業承継に向けての環境整備に取り掛かることが可能になりました。これまでに２つの事業者が無事に承継を終え、７つの事業者が今も話し合いを進めています。

市民に寄り添い、つなぐ。津市ビジネスサポートセンターは、住民に一番近い自治体だからこそできるサービスを提供することでお役に立ちたいと考えています。ぜひ一度ご相談ください。

「ＴＶ版市長コラム」では、前葉市長がこのテーマについて語ります　TV版　津市長コラム　検索

市長の活動日記から

南長野イルミネーションファンタジー2018…12月８日

16年間にわたり美里地域の冬の風物詩となってきた南長野地区の手作りイルミネーションが閉幕。歴代の人気作品が冬の夜空を鮮やかに彩りました。

カナダレスリング協会との事前キャンプに関する協定締結式…12月11日

世界一流の施設サオリーナに魅力を感じ津市で東京五輪に備える選手たち。一志でレスリング教室を開くなど、国際交流はすでに始まっています。

「市長活動日記」は津市ホームページでご覧になれます　津市長活動日記　検索

広報つ！　毎月1日・16日発行
編集・発行／津市政策財務部広報課　〒514-8611 西丸之内23-1　☎059-229-3111　FAX059-229-3339
印刷／共立印刷株式会社